

理由書

本市の柳ヶ瀬を含めた中心市街地は、岐阜都市圏の核であり、本市のみならず、圏域全体の発展を牽引する重要な役割を担っている。

なかでも、岐阜駅周辺、柳ヶ瀬、つかさのまち、岐阜公園の4つの個性に満ちたエリアについて、中心市街地活性化基本計画等、様々な計画に基づいて、これまでに築き上げ、受け継がれてきた個性を際立たせながら、商業、居住など多様で高次の都市機能を有する都市の顔となる中心市街地全体をさらに魅力ある空間へと導き、未来へ繋げていくことを目指している。

本市にとって、柳ヶ瀬は、かつて、商いを生業とする人々に支えられ繁栄してきた全国にもその名が通った「にぎわいの中心地」であった。再び、柳ヶ瀬のにぎわいを取り戻し、伝統と先進が融合したまちなみを創るなど、個性を際立たせながら、柳ヶ瀬の再生を進めている。

現在、柳ヶ瀬では、官民が連携し、市街地再開発事業とリノベーションまちづくりを両輪として、それぞれの相乗効果を発揮するまちづくりを進めており、高島屋南地区市街地再開発事業である「柳ヶ瀬グラスル35」の建設が進められるとともに、リノベーションまちづくりでは、数々の遊休不動産のリノベーションが行われ、新たに起業を志す若い人たちが店舗を構え、個性に彩られたまちの新たな魅力となるコンテンツが創出され、柳ヶ瀬のにぎわいが戻りつつある。

また、地元商店街やまちづくり会社などが中心となり、マーケットイベントが毎月開催されるなど、市内外から若い人たちを中心に多くの方が訪れ、柳ヶ瀬のにぎわいに繋がっている。

一方で、柳ヶ瀬は、本市の中心商業地として発展し、多くの店舗が、アーケードで一体的に繋がったまちであり、こうした個性あるまちなみと調和し、日常的に訪れ、暮らしたくなるまちを目指すうえで、開放感や風通し、陽ざしなどの確保といったまちなかの環境を整えることが求められている。

今後、さらに、柳ヶ瀬の再生に向け、開放感や陽ざしなどを確保し、若い人達などのまちづくり活動の拠点として、イベントなどで活用できる広場を柳ヶ瀬の中心に配置し、さらなる魅力の向上と環境整備を図る必要がある。

このまちづくり活動の拠点となる広場を「住む人」、「訪れる人」を結びつける重要なコンテンツとして、交流空間やレクリエーション空間など、多様な機能を有した空間とすることにより、柳ヶ瀬のさらなる魅力の創出とまちの価値の向上に繋げていくものである。

この広場を計画する当該地は、柳ヶ瀬のほぼ中央に位置し、まとまった敷地面積が確保でき、四方を通路に囲まれた立地条件で広場として適している。また、存置する建物は建築から46年が経過し、老朽化も進んでおり、閉店から約20年間、ほとんど利用されておらず、現在も遊休不動産のままである。

これらのことから、柳ヶ瀬を含めた中心市街地は、本市が持続的に発展するためのエンジンとなる重要なエリアであり、柳ヶ瀬のさらなる魅力の創出とまちの価値の向上を確実に実現するため、「柳ヶ瀬広場」を都市計画法に基づいた都市施設として、都市計画決定を行うものである。